



マスコットキャラクター
EMMA(エマ)ちゃん

2019年3月期 決算説明資料



株式会社 EMシステムズ

EM SYSTEMS CO., LTD.

(東証一部:4820)

I. 『2019年3月期 決算概況』

- i. 決算ハイライト
- ii. 連結業績推移／会計年度別
- iii. 連結業績推移／四半期別
- iv. 貸借対照表サマリー
- v. セグメント別 売上高／営業利益
- vi. セグメント別 売上高内訳
- vii. 調剤システム事業
- viii. 医科システム事業
- ix. 当社シェアならびにお客様数

II. 『事業の状況と今後の事業計画』

- i. 事業環境
- ii. 上半期施策
- iii. 今後の見通し（連結業績）
- iv. 株主還元
- v. 共通情報システム基盤

III. 『伊達公子さん EMシステムズアンバサダー 就任』

2019年3月期 連結業績

	2018年3月期	※ 2019年3月期（計画）	2019年3月期	前年比	計画比
売上高	13,953 百万円	13,146 百万円	13,133 百万円	△5.9%	△0.1%
営業利益	3,063 百万円	2,362 百万円	2,622 百万円	△14.4%	11.0%
経常利益	3,618 百万円	2,993 百万円	3,248 百万円	△10.2%	8.5%
当期純利益	2,369 百万円	2,020 百万円	1,971 百万円	△16.8%	△2.4%

※ 2018年11月9日に公表いたしました連結業績予想の修正の数値

2019年 3 月期 トピックス

- 2018年11月 ヘルスケア分野（医科・調剤・介護/福祉）の垣根を超えた「共通情報システム基盤」“MAPs シリーズ”を発表
- 保守担当人員業務効率化を目的としハードのメーカー保守化を開始
- 介護/福祉向けシステム事業強化のためのM&A実施
 - ・障害福祉事業分野に強みを持つジャニス社の事業譲受
 - ・施設系サービス分野及び地域包括支援センター向けサービス分野に強みをもつエムウィンソフト社の買収
- 課金収益の順調な増加（調剤・医科セグメント）
- セールス活動主体からマーケティング活動主体への転換スタート

I . ii . 連結業績推移／会計年度別(単位:百万円)

『フロー型』

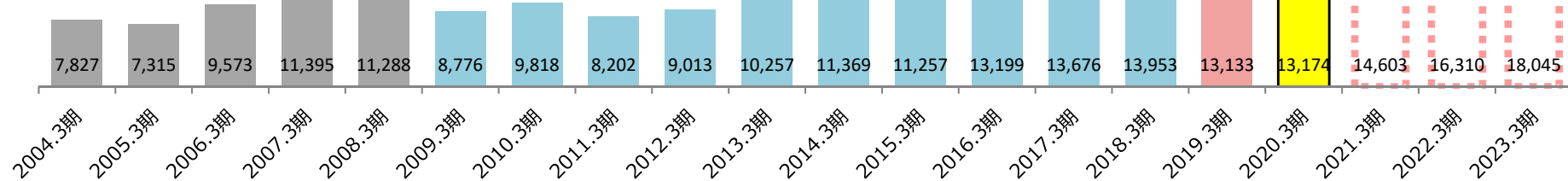
『一部ストック型』

『完全ストック型』

2020.3以降は計画値

売上高

(百万円)
年/3月期

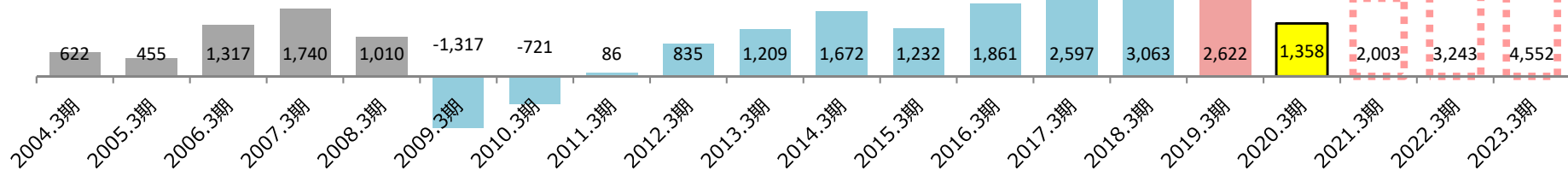


営業利益

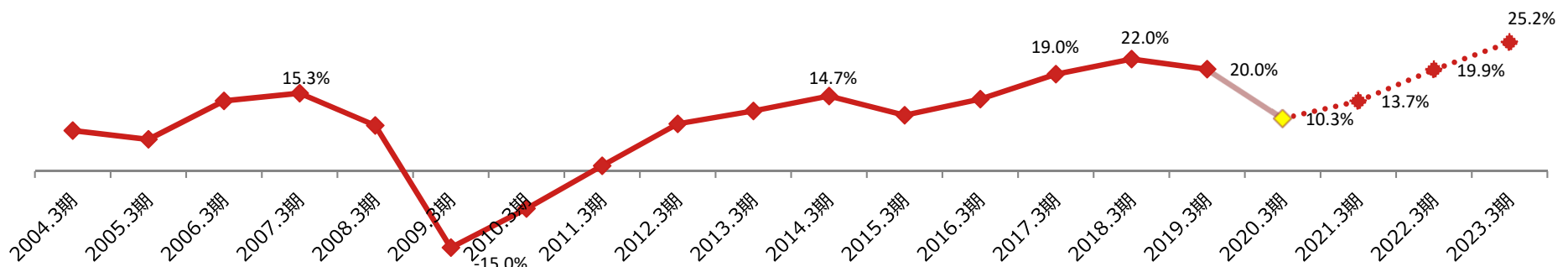
(百万円)
年/3月期

営業利益2019.3と2020.3減少の主な要因

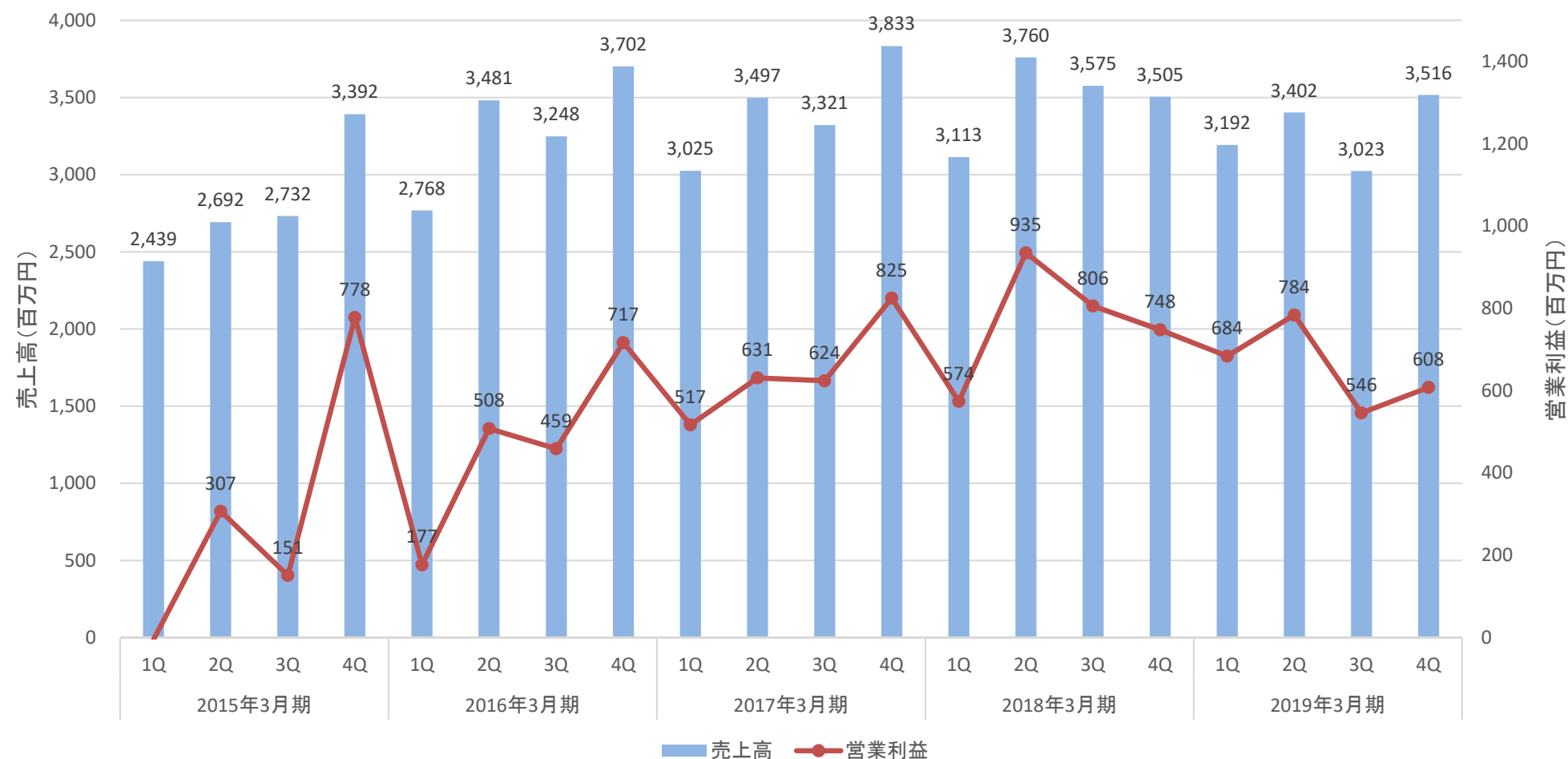
- (1) ビジネスモデルの変革 粗利率減少 △198百万円
- (2) " " 販売単価減少 △176百万円
- (3) 製造原価増加 △512百万円 (内減価償却費△324百万円)
- (4) 販管費増加 △344百万円 (内マーケティング費△233百万円)



営業利益率



I . iii . 連結業績推移／四半期別(単位:百万円)



I . iv . 貸借対照表サマリー(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減額	増減比
資産の部	21,893	22,352	459	2.1%
流動資産	11,592	10,930	△662	△5.7%
固定資産	10,300	11,421	1,121	10.9%
有形固定資産	1,580	1,676	95	6.0%
無形固定資産	682	1,930	1,248	182.9%
投資その他の資産	8,037	7,814	△222	△2.8%
負債の部	5,840	5,733	△107	△1.8%
流動負債	3,782	3,665	△117	△3.1%
固定負債	2,058	2,067	9	0.5%
純資産の部	16,052	16,619	566	3.5%
株主資本	15,924	16,536	612	3.8%
その他の包括利益 累計額合計	△17	△46	△28	164.1%
新株予約権	145	128	△17	△11.7%

主 な 増 減 額

現金及び預金	△ 1,000 百万円
受取手形及び売掛金	266 百万円

ソフトウェア仮勘定	916 百万円
のれん	416 百万円

I . v . セグメント別 売上高／営業利益

(百万円)

	2018年3月期		2019年3月期					
	売上高	営業利益	売上高			営業利益		
			実績	増減額	増減率	実績	増減額	増減率
調剤システム事業	11,307	2,870	10,476	△831	△7.3%	2,389	△480	△16.7%
医科システム事業	1,765	237	1,704	△61	△3.5%	239	2	1.1%
その他の事業	1,029	9	1,063	33	3.2%	0	△8	△90.2%

※セグメント別の売上高及び営業利益又は営業損失は、セグメント間の内部取引消去前の金額であります。

- ✓調剤システム事業・・・OEM提供での初期売上の減少により減収減益。
- ✓医科システム事業・・・MRNのお客様数が着実に増加。それに伴い課金売上げも順調に増加してる。
- ✓その他の事業・・・・・・薬局経営事業は堅調に推移。介護事業者向けシステム事業は、M&Aにより積極的な事業展開が可能に。買収により販管費負担が増加。

I . vi. セグメント別 売上高内訳

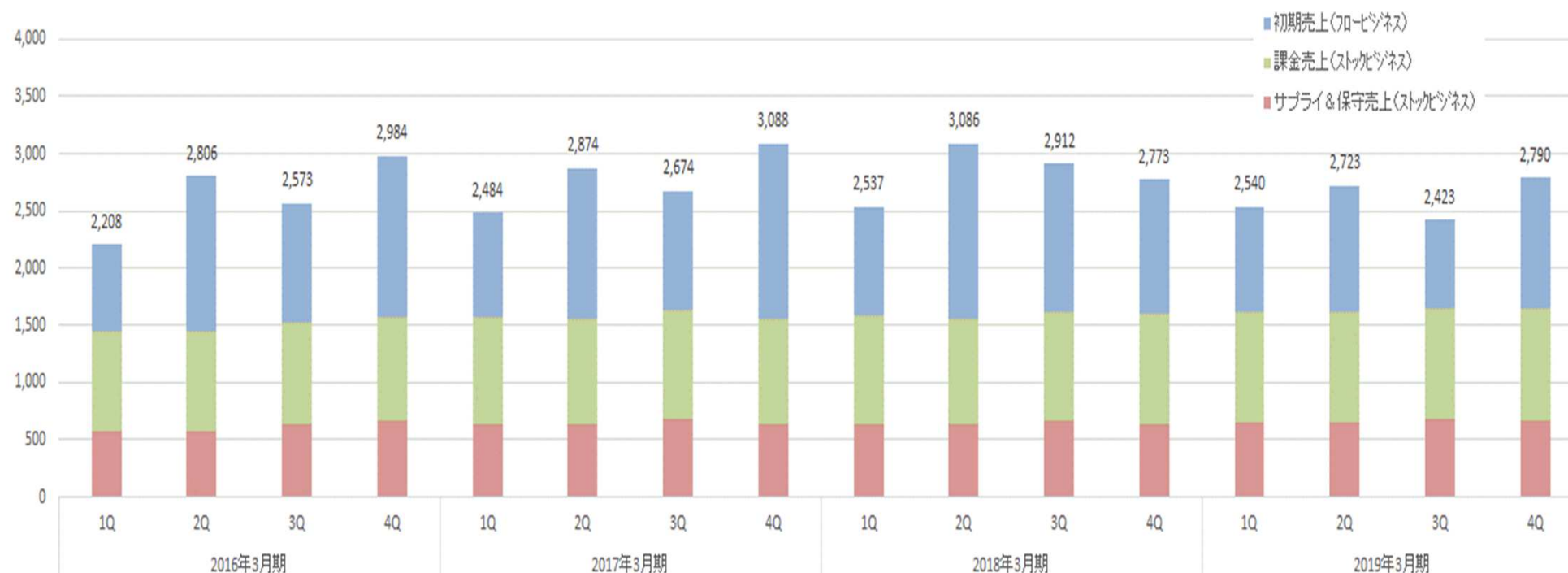
(百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減額 (前期比)	増減率 (前期比)
売上高	13,953	13,133	△819	5.9%減
調剤システム事業	11,307	10,476	△831	7.3%減
(内 初期売上)	4,960	3,940	△1,019	20.5%減
(内 課金売上)	3,778	3,891	113	3.0%増
(内 サプライ売上)	1,995	2,058	62	3.1%増
(内 保守売上)	573	585	12	2.2%増
医科システム事業	1,765	1,704	△61	3.5%減
(内 初期売上)	889	800	△89	10.0%減
(内 課金売上)	407	485	78	19.2%増
(内 サプライ売上)	94	97	3	3.4%増
(内 保守売上)	374	320	△53	14.3%減
その他の事業	1,029	1,063	33	3.2%増
調整額	△148	△109	39	5.9%減

※セグメント別の売上高は、セグメント間の内部取引消去前の金額であります。

I . vii. 調剤システム事業

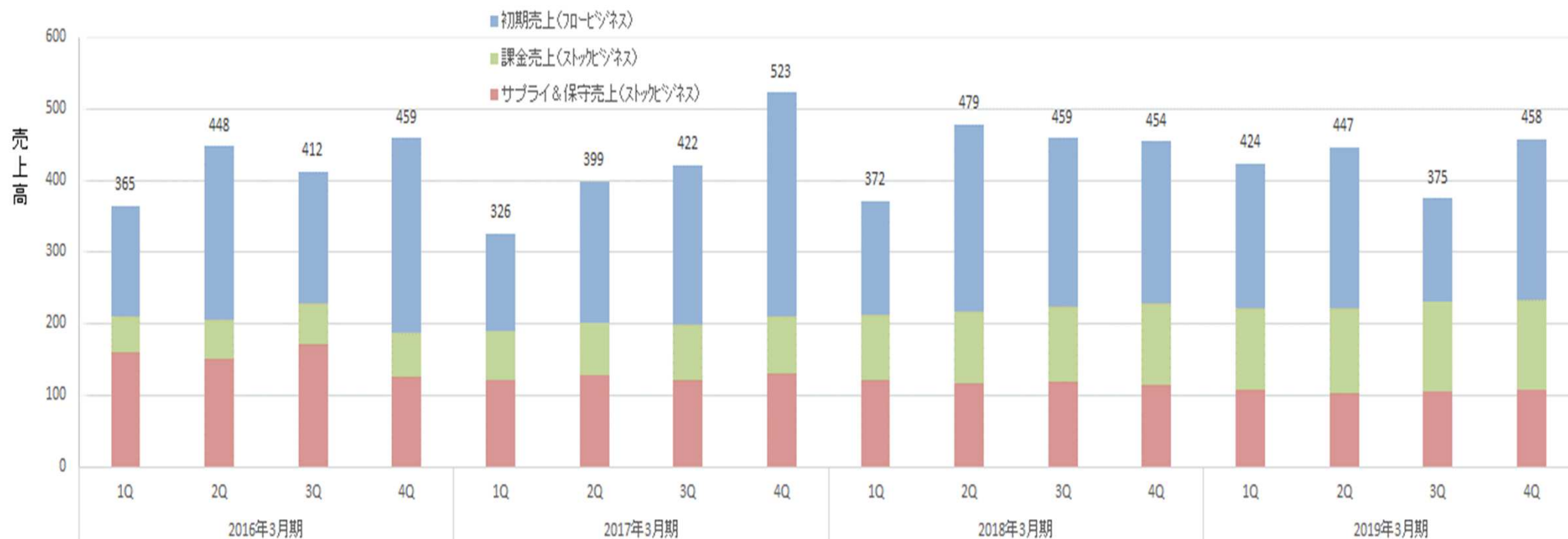
四半期別売上推移（単位：百万円）



	2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
初期売上	768	1,365	1,055	1,409	920	1,319	1,037	1,536	953	1,532	1,297	1,179	919	1,102	776	1,144
課金売上	862	866	884	907	928	925	951	910	946	920	948	964	969	964	972	987
サプライ&保守売上	578	575	634	668	636	630	686	642	638	634	667	630	652	657	675	659

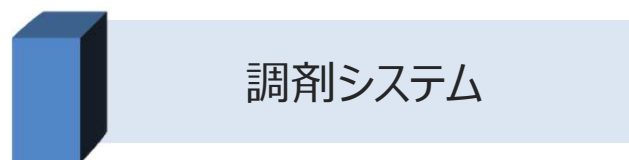
I . viii. 医科システム事業

四半期別売上推移（単位：百万円）



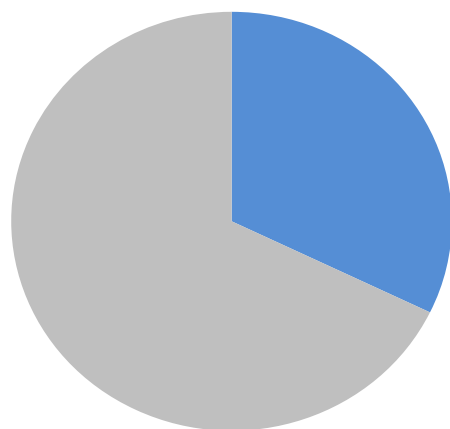
	2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
初期売上	155	244	185	273	136	198	223	313	161	262	237	227	203	227	145	225
課金売上	51	53	56	61	70	73	78	80	91	101	104	113	115	118	126	127
サプライ&保守売上	159	151	171	125	120	128	121	130	120	116	118	114	106	102	104	106

I . ix . 当社シェアならびにお客様数

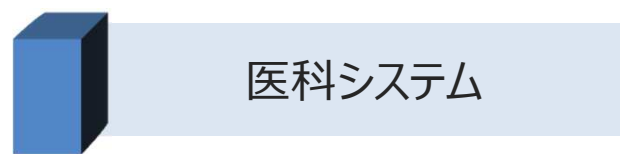


当社お客様 16,082軒

シェア 32.2%

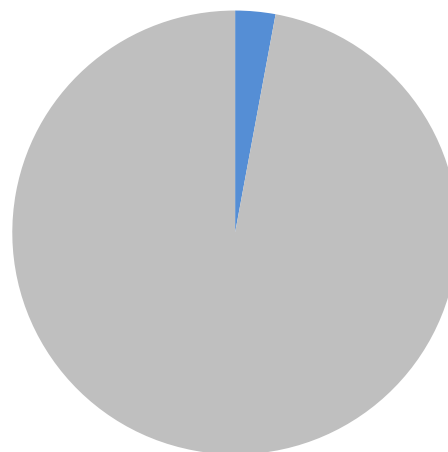


対象母数: 50,000軒

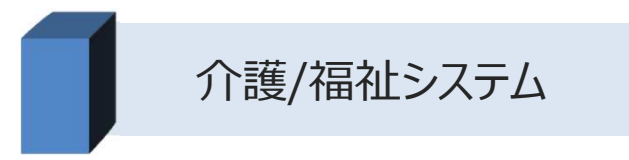


当社お客様 2,618軒

シェア 2.9%

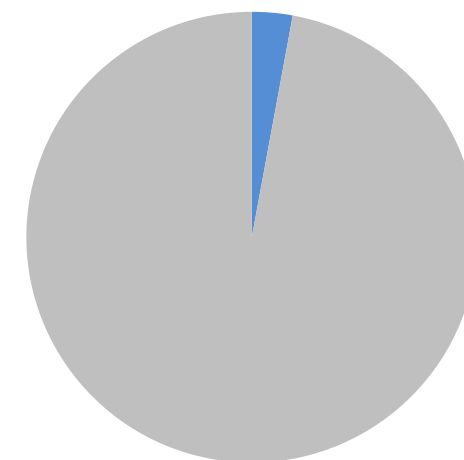


対象母数: 90,000軒



当社お客様 13,500軒

シェア 5.4%



対象母数: 250,000軒

※1 当社お客様件数は当社が販売しているシステム製品のお客様数になります。

※2 調剤・医科の対象母数は、当社が製品販売先としての対象数を独自に設定したものであり、実際に登録されている薬局数、診療所数とは異なります。

※3 介護/福祉の当社お客様軒数は、精査前の軒数で、精査後軒数が変動する可能性があります。

(2019年3月31日現在)

市場環境

- 政府は、オンライン診療・オンライン服薬指導の普及拡大を目指す取組を発信するも伸び悩み
⇒オンライン診療……規制改革会議が診療報酬の値上げを提言
⇒オンライン服薬指導…特区への公的医療保険の適用により大手薬局チェーンが相次いで参入を表明
- 診療所における電子カルテ普及率 4割超
- 2018年4月 診療報酬・介護報酬 同時改定の影響により、大手薬局チェーンの薬局事業は、軒並み減収減益
- 薬局事業環境の変化により、大手薬局チェーンが相次ぎ持株会社体制へ移行、各社M & A等の組織再編成を急ぐ
- 薬品卸各社との新しい薬価に対応した仕切り価格交渉で、薬局経営がより厳しく（流通改善がトラン）
- 薬剤師以外のピッキングや一包化「薬剤師の指示に基づく」実施が可能
(厚生労働省医薬・生活衛生局総務課は4月2日付で、都道府県宛に通知)
- 大規模チェーン介護施設の増加
- 高齢者と障害児者が同一の事業所でサービスを受けやすくするため共生型サービスが新設

主な取り組み

- 新製品（MAPsシリーズ）による新規顧客・他社リプレイスの促進
- EMソリューション、エムウィンソフトの資産を活かした介護/福祉市場への積極的営業展開
- 介護/福祉事業 MAPs for NURSING CAREの開発着手及び製品競争力の強化
- 共通エンジンのOEM提供による業界の標準化及びコストダウンの貢献
- ブランディングへの積極的な投資
- マーケティング活動の積極的展開
- 拠点営業のリソースを医科・介護/福祉市場へシフト
- グローリー(株)と処方箋入力支援システムで協業（2019年10月より提供開始）
- 働き方改革の推進と業務生産性向上



Ⅱ. iii. 今後の見通し(連結業績)

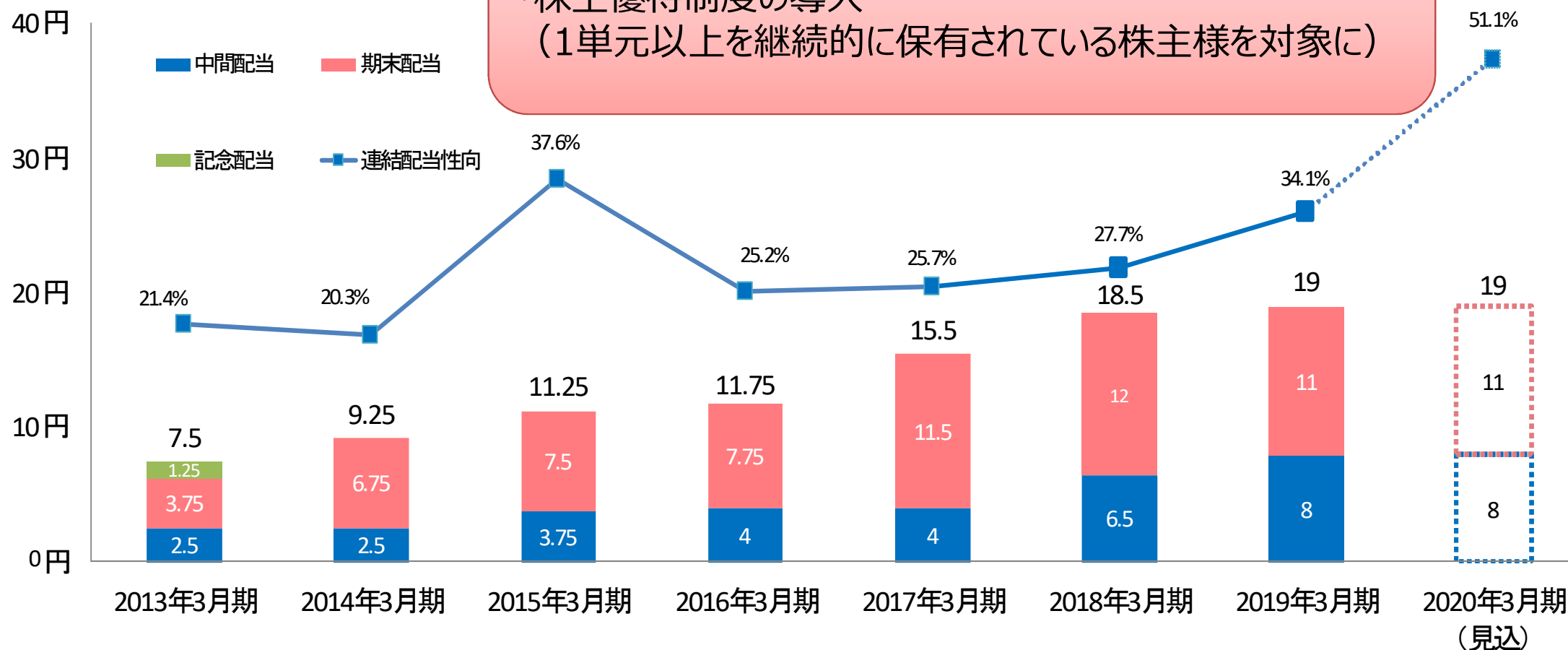
(百万円)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 通期予想	前年実績比
売上高	13,133	13,174	0.3%
調剤システム事業	10,476	9,423	△10.1%
医科システム事業	1,704	2,202	29.2%
その他の事業	1,063	1,648	55.0%
調整額	△ 109	△ 99	△9.3%
営業利益	2,622	1,358	△48.2%
調剤システム事業	2,389	1,086	△54.5%
医科システム事業	239	258	7.9%
その他の事業	0	20	-
調整額	△ 7	△ 7	△2.8%
経常利益	3,248	1,980	△39.1%
当期純利益	1,971	1,307	△33.7%

※セグメント別の売上高及び営業利益又は営業損失は、セグメント間の内部取引消去前の金額であります。

Ⅱ.iv. 株主還元

- ・ROEを重視しつつ、配当性向 30% を目標
- ・株主優待制度の導入
(1単元以上を継続的に保有されている株主様を対象に)



※1 当社は、2016年4月1日付け及び2018年3月1日付けで、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。上記では2013年3月期の期首にそれぞれの株式分割が行われたものと仮定して表記しております。

Ⅱ．Ⅴ．共通情報システム基盤



- ・ヘルスケア分野(医科・調剤・介護/福祉)におけるシステム一体化、クラウドシステム
- ・医療・調剤・介護/福祉従事者間での連携が可能
- ・ご希望機器の調達・操作習得・導入設定等をセルフサービス化し、お客様の導入時負担を軽減
- ・「かかりつけ(患者様に寄り添う)」と「診療科目ごとの専門性」を兼ね備えた問診機能
- ・最新技術を活用したサジェスト機能 (お客様に対して、システムからの提案機能)
- ・カルテや薬歴などの作成支援機能
- ・初期ライセンス費用無料、月額費用の低価格化を実現し、お客様の負担を削減

Ⅲ. 伊達公子さん EMシステムズのアンバサダー就任



◇ お問い合わせ先

株式会社 E Mシステムズ
経営企画部 IR担当

〒532-0003
大阪市淀川区宮原1-6-1
新大阪ブリックビル

TEL : 06-6397-1888

FAX : 06-6397-1890



本説明資料に記載されている内容は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。将来発生する事象等により内容に変更が生じた場合も、当社が更新や変更の義務を負うものではありません。

また、本資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、多分に不確定な要素を含んでいるため、実際の業績等は、様々な要因により、大きく異なる可能性があることをご了承ください。